

# 2010年度 東京大学 前期 日本史B

## 第 1 問

奈良時代、官位相当制の下で貴族は官僚機構の中樞を担い、田地などを給与された。10世紀、籍帳支配が崩壊すると、定額租税を請負う国司は徴税請負人化して蓄財したので、中下級貴族はその地位を望んだ。摂関政治期、中下級貴族は人事権を握る上級貴族に奉仕して接近することにより、受領などの地位を得た。一方、軍事貴族の清和源氏は摂関家の侍として台頭し、地方での反乱鎮圧も担った。

( 180 字 )

## 第 2 問

A 二毛作が普及していた畿内・九州からは米が、荏胡麻が栽培された畿内では油が、関東からは衣料原料の麻・絹などが納められた。

B 宋銭の流入や商業の発展などにより、年貢の代銭納が始まった。

C 明銭流入による貨幣経済進展や、手工業品・特産物の生産が商業の発達を促すとともに、廻船・馬借など水陸の運送業も成長した。

( 150 字 )

## 第 3 問

A 山師の出身地は、鉱脈を探る技術を持つ者が多い北陸・中国地方と経営能力を有する者がいる畿内であり、精錬を行う職人の出身地は、大森銀山で灰吹法を身に付けた者が多い石見国などであった。

B 年貢米を売却して財政基盤とする藩にとり、高米価での売却や大坂への輸送経費節減が可能となる領内の町での換金が有利だった。

( 150 字 )

## 第 4 問

井上馨の極端な欧化政策や甲申政変など朝鮮を巡る日清の対立は、国権論を台頭させた。その情況下、井上外交を批判する民権派は外交失策挽回を掲げて三重大件建白運動を起こし、民友社は平民的欧化を主張した。一方、政教社は国粹保存主義、陸羯南は国民主義を掲げて欧化主義を批判し、洋画排斥運動が起きると、工部美術学校は閉鎖され、日本美術の保護を掲げる東京美術学校も設立された。

( 180 字 )